第 20 回 日本慢性看護学会 学術集会 交流集会のご報告



慢性疾患看護専門看護師研究会の会員が企画、担当をし、第20回日本慢性看護学会 学術集会 交流集会に参加しました。

開催日時：2026年7月11日（土）13：20～14：30

場所：岡山県岡山市 岡山コンベンションセンター

テ ー マ:『つながりを保ちながら関わり続ける支援』

交流集会の内容:糖尿病管理不良を背景に心不全増悪による再入院を繰り返す60代男性の事例を題材に、医療者が戸惑いや無力感を抱いたときに患者を捉え直し、教育的な関わりにつなげる方法について検討しました。参加者は5つのグループに分かれ、身近な実践場面に置き換えながら意見交換を行いました。

参加者数:40名（アンケート回答34名、回答率85%）

【アンケート結果より】



進行・時間配分、交流集会の内容、実践への役立ち度について、それぞれ約97%の回答者から肯定的な評価が得られました。自由記述では、「普段のモヤモヤを言語化できた」「他施設の取り組みを聞けて参考になった」といった意見があり、悩みを共有する機会として肯定的に受け止められていました。また、患者の思い（S情報）を記録に残すことや、後輩育成、職場の風土・仕組みづくりに活用したいという声もみられました。一方、ディスカッション時間やグループ人数、問いの表現について改善を求める意見もありました。今回の交流集会では、「患者をどう変えるか」ではなく「患者がどう生きたいか」を起点に支援することの重要性が共有されました。患者との対話を重ね、できていることや患者自身の工夫など強みに着目し、その努力を言葉にして伝えること、また、多職種で情報を共有し、患者を生活者として理解することが大切であると確認できました。企画メンバーにとっても、慢性看護や医療者への教育的関わりについて理解を深め、他施設の慢性疾患看護専門看護師との交流を通して新たな視点を得る機会となりました。今後は、グループ構成や時間配分、ディスカッションの問いを見直し、企画の目的や進め方を関係者間で共有しながら、より充実した交流集会につなげていきたいと考えています。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

＜交流集会 企画・発表者＞

乾 彰弘	兵庫医科大学病院	小笠原 倖	日本赤十字社成田赤十字病院
斉藤 那美	小清水赤十字病院	土田 ひさよ	日本赤十字社医療センター
豊 早苗	京都第一赤十字病院	宮部 綾子	JA岐阜厚生連 岐阜西濃医療センター西濃厚生病院

